※令和４年度以降入学生用

学校番号	３００７

令和５年度　工業科（ファッション工学科）

教科	工業	科目	ﾌｧｯｼｮﾝ工学実習	単位数	４単位	年次	２年次
使用教科書	ﾌｧｯｼｮﾝ造形基礎（実教出版）						
副教材等	ﾌｧｯｼｮﾝ造形（実教出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

ﾌｧｯｼｮﾝ工学実習は、１年生で学んだ織物、染色、縫製、パターンの応用となります。テキスタイルでは色彩構成を組み合わせたテキスタイルデザインを行い、ニットに対する理解を深めます。染色では染料を使用し、１年生時に使用した顔料との染色方法、色味の違いを理解したカラーリングを行い、染色に対する理解を深めます。縫製では１年生時のスカートの応用と身頃を組み合わせた制作を行い、縫製に対する理解を行います。パターンでは１年生時のスカートから身頃へ発展し、袖、襟のデザインを行い、パターンへの理解を深めます。１年生より発展した内容の実習になります。今後の制作、将来の目標へとつなげるように学んでください。また座学における学習も振り返りながら制作しましょう。

2　学習の到達目標

(1)．　ニットでは編み方の理解から始まり、作品への創造性の基礎を養う。また、ニット製品における機材の知識と技術を身に付け、自ら思考し、適切な製作方法を判断し、表現する力を養う。また、主体的に取り組む態度を育成する。

(2)．　染色では染色に対する基本理解、捺染による基本操作方法の知識と技術を身に付ける。ラスタ系ソフトの技術を身に付ける。デザインした染色制作物の制作を通して、創造性を養う。また、自ら思考し、適切な製作方法を判断し、表現する力を養う。また、主体的に取り組む態度を育成する。

(3)．　縫製では手縫いの基本練習、工業用ミシンの職業用アイロンの基本操作の技術を身に付ける。原型ワンピース制作を通して、デザイン考案で創造性を養い、さらに、平面から立体へ空間認識能力を身に付ける。自ら思考し、適切な製作方法を判断し、表現する力を養う。また、主体的に取り組む態度を育成する。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	ﾌｧｯｼｮﾝ工学に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、現代社会における工業の意義や役割を理解し、その技術を適切に活用している。	ﾌｧｯｼｮﾝ工学に関する諸課題の解決をめざして思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、技術者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	ﾌｧｯｼｮﾝ工学に関する課題について関心をもち、その改善・向上をめざして主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
通年	ニット	・かぎ針、棒針の使用方法 ・作り目、目の数え方 ・手編み技術(鎖編、細編、中長編、長編、パプコーン編、引抜編、伏目)	a: 編み物の基本構造と編み記号・編み方が理解できる。 b: 編み図から完成までの工程を考察することができる。 c: 製品の完成度を高めるため主体的に取り組むことができる。	学習状況の観察 レポート 作品	学習状況の観察 レポート 作品	学習状況の観察 レポート 作品
	染色	・デザイン考案 ・Illustrator や Photoshop をしようした版下作成 ・手切りによる版作成 ・染色液の作成 ・捺染	a: ロゴマークに目を向け、色彩や形の役割や効果を理解することができる。 b: デザインのもつ情報伝達性を理解し、創造的な表現に生かす工夫をすることができる。 c: 染色について自ら学び主体的に取り組む	学習状況の観察 レポート 作品	学習状況の観察 レポート 作品	学習状況の観察 レポート 作品
	縫製	・布の選定、取扱い方 ・工業用ミシンの使用方法 ・裁断方法 ・縫製技術(タック・ダーツ・ギャザー・ボタンホール) ・ロックミシンの使用方法	d: 工業用ミシンの取り扱い方を理解できる。 基礎的な縫製技術について理解できる。 e: 目的に応じた布を選定し、型紙を適切に配置することができる。 完成までの工程を考察することができる。 f: 布を正確に裁断することができる。 製品の完成度を高めるため主体的に取り組むことができる。	学習状況の観察 レポート 作品	学習状況の観察 レポート 作品	学習状況の観察 レポート 作品

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度